

キャンプファイヤー・キャンドルサービス（例）

90～120分

倉敷市自然の家

1 活動の概要

静かな自然の中で火を燃やし、厳かなセレモニーと楽しいレクリエーション等でメンバーの心を揺さぶり高める。

日常生活では得られない火の神秘性を体験し、楽しい時間を共に過ごし、友情と親睦を深める。

2 活動場所

キャンプファイヤー	キャンドルサービス
ファイヤー場（約200人可）	いろりの家（約100人程度可）
冒険の広場<体育館横>（約200人可）	クラフト棟（約50人程度可）
さくらの広場（約50人程度可）	

3 準備

キャンプファイヤー	キャンドルサービス
<自然の家> 延長コード トーチ（無料） 灯油・薪（有料）	<自然の家> 延長コード・燭台・ブルーシート（無料） ろうそく（有料）
<学校（団体）> 新聞紙 軍手 ライター 懐中電灯 スタンプの道具・衣装 アンプ・マイク	<学校（団体）> ライター CD 懐中電灯 スタンプの道具 アルミホイル（手持ち燭台用）

4 係

- 営火長 1名 団体を代表する人
 - 女神係 1名
 - 分火係 数名 クラス（グループ）の代表
 - エールマスター（1～2名） 司会進行
 - ファイヤーキーパー（1名） 火の管理
- いなくてもよい



5 実践例

第1部：儀式の火（セレモニーファイヤー） 15～20分

キャンプファイヤー	キャンドルサービス
<p>① 入場・整列</p> <ul style="list-style-type: none"> ・静かに入場し火床を囲み、起立したまま静かに待つ。 ・女神はトーチを持って、出発点で待つ。 ・営火長・エールマスターは最初から配置についておく。 	<p>① 入場・整列</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全員ろうそくを持ち入場し、燭台を囲み、起立したまま静かに待つ。 ・女神は大きいろうそくを持って、出発点で待つ。 ・営火長・エールマスターは最初から配置についておく。
<p>② 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エールマスターが開会の言葉を言う。 	
<p>③ 火を迎える歌・女神入場</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「遠き山に日は落ちて」を全員で歌いながら火を迎える。（1番は歌詞、2番からはハミング） ・女神入場 ・女神はトーチ（大きいろうそく）を営火長に渡し、営火長の隣に位置する。 	
<p>③ 営火長の言葉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・火に関する話や感動的な話を取り入れる。 	
<p>⑤ 分火・点火</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分火係は営火長の前に整列する。 ・営火長が分火係に火を授ける。 ・その時、分火係は順番に誓いの言葉を言う。 ・分火係は火床の周りに位置し、合図で点火する。 	<p>⑤ 分火・点火</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分火係は営火長の前に整列する。 ・営火長が分火係に火を授ける。 ・その時、分火係は順番に誓いの言葉を言う。 ・分火係は自分の位置に戻って、順番に隣へ火を分けていく。 <p>集火</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中央燭台へ順番にろうそくをさしていく。 （大人数の場合は代表者） <p><u>火のついたろうそくは、絶対に傾けない！</u></p>
<p>⑥ 歌</p> <ul style="list-style-type: none"> ・炎がついたら「燃えろよ燃えろ」を歌う。 キャンドルサービスは2番のみ 	

第2部：親睦の火（ボンファイヤー） 45～60分

- それぞれ練習・用意してきた出し物を披露する。
- 全員でできるフォークダンス、ゲーム、歌なども入れるとよい。
- ※ 明るく楽しい雰囲気になるようにする。
- ※ 制限時間を決めて、だらだらとならないように配慮する。
- 3～5分程度の短いものが理想的である。



第3部：儀式の火（セレモニーファイヤー） 10～15分

キャンプファイヤー	キャンドルサービス
① 営火長の言葉 ・まとめの話をする。	
② 感想発表（省略も可） ・発表者は営火長の前に出て、感想や抱負などを話す。	
③ 閉会 ・エールマスターが閉会の言葉を言う。	
④ 退場 ・「今日の日さようなら」「一日のおわり」など、静かな歌を歌う。 ・2番からハミングで、ハミングになったら退場する。	
後片づけ ・残り火は中央にまとめて、ドラム缶をかぶせてください。（水は絶対にかけない） ・翌朝、野外炊事場下の灰捨て場に、灰を運んでください。	後片づけ ・燭台とブルーシートを元の場所に片づけてください。 ・ろうそくはお持ち帰りください。

6 留意点

- ・キャンプファイヤーやキャンドルサービスには、形はありません。創意工夫と協力で、ねらいに沿って、自由に活動を考えてください。
- ・事前の準備には十分時間をとり、余裕をもって実施しましょう。
- ・安全管理には十分注意し、特に火気の取り扱いに注意してください。

エールマスター司会進行（例）

第一部 儀式 の 火	① 入場 ② 開会 ③ 聖火・女神 入場 ④ 営火長の言 葉 ⑤ 分火 ⑥ 点火 ⑦ 歌	エールマスターが入場を指示する。 「ただ今から〇〇のキャンプファイヤー（キャンドルサービス）を 始めます。」 「聖火入場、遠き山に日は落ちてを歌いましょう。」 （1番は歌詞、2番からはハミング） 歌に合わせて女神入場。トーチ（大きいろうそく）を営火長に渡し、 営火長の隣に位置する。 「営火長の言葉をいただきます。」 「分火、誓いの言葉！」「分火係は営火長から火をいただきます。」 「続いて、誓いの言葉をお願いします。」 「点火！」分火係が火床の周りに位置したら点火する。 （キャンドルサービスの場合） 「分火係は自分の位置に戻って、友に火を分かち与えてください。」 「分火係に続いて燭台に火を移しましょう。」 「それでは、燃えろよ燃えろを歌いましょう。」 「以上で第1部を終わります。全員座りましょう。」
第二部	親睦のつどい	ゲーム、スタンツやフォークダンス、歌など、事前に順番を決めておき 全員に知らせておく。
第三部 儀式 の 火	① 営火長の言葉 ② 感想発表 ③ 閉会 ⑤ 退場	「これより第3部を始めます。」 「営火長から終わりの言葉をいただきます。」 「次に、皆さんを代表して〇〇さん、〇〇さんに感想を発表してもら います。」 「以上で〇〇のキャンプファイヤー（キャンドルサービス）を終わります す。」営火長が話すのでエールマスターは余計なことは言わない。 「今日の日はさようならを歌いながら退場しましょう。」

各係の言葉（例）

営火長 はじめの言葉

わたしは由加の神の使いとして、〇〇のみなさんに神の聖なる火をつかわすためにここに来た火の神です。「燃え上がる火を見よう。生きている赤い火、暖かい火、生の火です。この火が私たちの文化、文明を築く源となりました。昔の人は火を大切にしました。料理をしたり、灯火としたり、生活に欠くことのできないものだったからです。一方、火は恐ろしいものでもあります。取り扱いを間違えると、またたくまに野原や森や林を焼き尽くしてしまいます。ですから、私たちはこの火を大切に正しく使わなければなりません。この火をしっかりと見つめてください。自らを燃やし、私たちに光と熱を与えてくれるその姿は、思いやりの姿を教えてください。さあ、今夜はこの明るい火に負けないように、大声で歌い、笑い、踊り、心を開いてすばらしい思い出を作りましょう。」

分火係 誓いの言葉

規律の火	わたしたちは、決まりを守って生活することを誓います。
友情の火	わたしたちは、友達と助け合うことを誓います。
奉仕の火	わたしたちは、人のためにつくすことを誓います。
感謝の火	わたしたちは、まわりの人に感謝することを誓います。
自然の火	わたしたちは、自然を大切にすることを誓います。

感想発表

略

営火長 終わりの言葉

みんなが力を合わせて頑張ったすばらしいファイヤーになりました。あんなに赤々と燃えていた炎も、今は静かに大地に還ろうとしています。でも、みんなの心の中には、赤々と燃え続ける炎が見えると思います。目を閉じると、一生懸命燃えているファイヤーと、その周りで楽しそうにしているみんなの顔が見えます。このすばらしい体験を忘れることなく、明日からの活動もがんばっていきましょう。